

特67

440

岩木山神社縁起畧諺解

013856-000-8

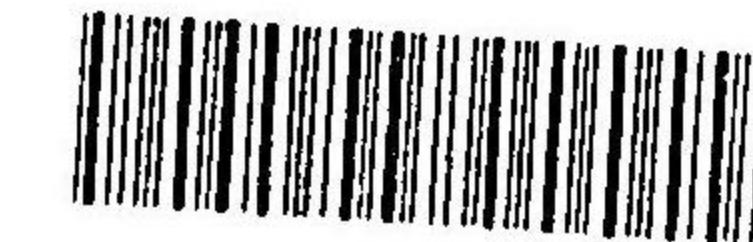
特67-440

岩木山神社縁起略諺解

下沢 保躬／編

M12

ABB-0071



陸奥國中津輕郡百沢村鎮坐
國幣社岩木山神社 縁起畧諺解

岩木山ハ頂上三峯小一て南面の山也中央の大峯代
岩城山と云左方の東小峯を巖鬼山と云右方の西
小峯を鳥海山と云此三山を合せて世人岩木山と唱ふ若
木山の上に本宮有て 蕉の下居宮も同前

顯国魂神

又名大国土神、神代日本國中
を領玉ひ國也を守護也、神也
一名国安珠姫命渡海並漢業
茅を守り玉ふ神也

岩木山の主神

多都比姫神

一名安珠姫命渡海並漢業
馬を守り玉ふ神也

岩鬼山の主神

大山祇神

宇賀能賣神

征夷大將軍

坂上苅田麻呂神

田村大呂ノ父也て軍神也

鳥海山の主神

右五神徃古より鎮坐——即ちすく岩山ハ神世小あき

るといふ

但

此山始メのみ者べの杜

といひ一ヶ宝龜十一年

あると古老の傳承古記有あると云ふ。又あそびの處城が今下居宮の地を云ふ。或え小室龜山中山中小きり處く多くありと云ふと却もふ。

祖武天皇延暦十九年征夷大將軍坂上田村丸前

年當社の靈驗を蒙る。岩木山の元藤十腰内、

神社をたてて育き祭り其時より下居宮と云ふ。後

寛治五年今百沢村へ遷坐腰内す百沢と号一、十

次を越後高岡を以てあり。け地富岡又あそびの津輕家代々宗教再昌あり別て従五位信政朝臣の代

人を高照神社合祭合祭貞享三年より元祿七年迄にて口余

の如ク善義を極めより此時の入用金拾八万兩

也。明治六年六月朝廷よりも崇教國幣小社

とせらる又陸奥國中の惣鎮守として即今の一の宮
とも云へき也世人此宮の義を仰給して奥の日光といふ
明治六年五月十八日守山神社の三神を合併せらる
朝廷よりハ祈年新嘗例祭に奉幣使として縣官
参向せらる又毎日供あり私祭の日左、

神輿祭

旧暦正月七日舟玉祭

新月二月宇賀之賣祭

鎮花祭

更衣祭

四月一風神祭

四月四雷除祭

六月山田祭

鎮火祭

六月十二

御田稚祭

六月十五道郷食祭

六月山田祭

山納祭

九月廿二

山田祭

九月三十

更衣祭

十月一ノ神事十一月十三日

御年越祭

十二月廿二

月祀

毎月一日十五日

標木

山の高サ世俗

三里と云々直径十四丁ヨ本社入口

標木より頃上本宮迄十五丁ヨ弘前市牛町蓬

茅橋迄下居宮より三里十三丁四十二間

一 樓門 高五丈六尺 犬殿 高五丈一尺 中門 高丈六尺 唐門 高丈五尺

本社 懿黒^{マリ} 黄金^{タカニ} 金具 高二丈六尺 互す堅一丈九尺六寸

一 貞享元禄年中造営 付津輕將監 家老城傳等門

人用物奉行岡田帶刀宮館嘉左門 大工物棟梁深竹中

忠左エ門 以下百九十九人 彫物大工江戸岸上太郎兵工

弁殿本社以下并本社丙柱龍彫物師

越前守至門後守

一 山中ノ名産 苦ノ実 五葉松 石南木 千石^{アシタケ} 口日加ヶ蔓

自然生稻 疏黃外畧之△鱗^{ハナ}沢ヘセ里 緑ノ温泉ヘ三里

一眼ヲとめて凡るへき物ハ 神木の大杉木^ヒ 老木^{シロウ}

津輕侍従牛植松 横門下虎の石らんかん 本社屋

上の金の孔雀 こそきの瀧 庭園景 五股の杉

三

表門の大松此外佳景多し又山中の名所数多矣
畧之みて登臨の時ハ半腹^{アラハ}國中を眼下に仰^{アツム}
頂上小至^{シバ}四面の千山万岳一つもあき^{アキ}く口^{アフ}ハ
耕田白神の二山あひて南部地方ハ八戸漸^{アシタケ}美
其遠近の山河ハ更也遂に仙臺の石巻港の
金花山も波上に浮ふ其余上下北部^ヒ并北海道
の国^ヒ島^{シマ}眼中^{アシタケ}我^{アシタケ}津輕郡 海陸山
川ハ名工の函因^{アシタケ}小似^{アシタケ}アリて羽後の国ハ郎深ハ
近く見渡^{アシタケ}して鳥海山酒田込^{アシタケ}ア殺郡の
村落^{アシタケ}桑布^{アシタケ}ある家况めもありやうあり

今古歌詩の力

不二^{アシタケ}も^{アシタケ}やいん^{アシタケ}岩木のたけ^{アシタケ}の曙 よみ人知

白めの雪うつすハ陸奥の岩木のぬけ小道、序々 津軽信義朝臣
仰うたけも御ね岩木山も緑のむか色も常ある。 徒位
岩木山のあゆの野の野の光をほくとあめねり 佐の資枝公
やの林よ御よへや、唐島の岩木のまのまのさり 同頌承朝臣
筆すら旭もにせかくく岩木の山のせとよや、 正三位承照朝臣
動あき時代の何とまみ山かよがらぬむろひの、 正三位徒山有義
陸奥の空珍美すのとうちこし、かぶらや水 三條太政大臣兼公
詠 岩城山 三首之一 一本書
今野玄吉所藏 寒巖海量

岩城高倚瀧渓邊、突兀三峯秀碧天、六月班く雪未尽、
時々搖草雲周旋、平連田野城樓聳聳接山嶺
郡縣懸、誰測天工造化妙、別現芙蓉萬仞巔
明治二年八月

編輯人

陸奥國中津輕郡弘前南川端町士族

出版人

右 同

百澤村士族

右 同人

山田稻城

下澤保躬

右 同

村平民

多田壽海

代價三元

明治二年三月出版御届濟

